

## 本校乳幼児教育相談で行っている他機関との連携について

吉野賢吾・土手 信

本校乳幼児教育相談（以下、本校乳幼）において近年、医療機関で人工内耳の埋め込み手術を受ける子どもの数が増えてきている。また、母親が仕事に就いているため、保育園に通いながら本校乳幼で支援を受ける子どもの数も増えてきている。医療機関からの、聴覚障害以外に障害を併せ有する子どもの紹介も増えてきている。このような変化により、本校乳幼で行っている他機関との連携のとり方も現状に合わせて変わってきている。現在本校乳幼で行っている他機関との連携について整理し、成果と課題について明らかにする。

キー・ワード：乳幼児教育相談 センターの機能 医療機関 保育園 発達センター 他機関連携

### 1 はじめに

本校乳幼では、保育所や医療機関、発達センター等と他機関との連携を行っている。しかし、その連携の仕方や目的などは、連携先によって違いがある。そこで本校乳幼が具体的にどのような機関とどのような目的を持ち、どのような連携を行っているのかについて整理する必要があると考えた。他機関との連携について整理することで、本校乳幼で行っている連携の成果と課題について明らかにしたい。

### 2 各機関との連携・取り組み

#### (1) 医療との連携

本校は千葉県の北西部にあるため、千葉県内と東京都内の新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関に指定されている病院より、子どもを紹介される場合がほとんどである。子どもを紹介された病院とは、聴力測定の結果を共有するという形で連携をとっているが、それらの病院の中で、以下の2つの病院が本校乳幼とより密な連携を取っている。

##### ① 小張総合病院小児難聴言語外来

千葉県内にある精密聴力検査機関である。精密検査を行った結果、気になるケースがあれば、担当医師から直接電話で本校乳幼に紹介の連絡が来る場合がある。また、補聴器の装用が必要だと担当医師が判断した場合、本校乳幼のスタッフと話し合いながら補聴器の装用を進めるようにとの指示が保護者に

出される。補聴器の試聴を始めるにあたり、後に補聴器購入のための意見書を書いてもらうことも視野に入れ、担当医師と連絡を取り合いながら補聴器の選定等を進めている。

##### ② 東京大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

東京大学医学部附属病院耳鼻咽喉科（以下、東大耳鼻科）では、人工内耳の埋め込み手術を行っている。人工内耳の埋め込み手術が必要だと思われるケースや、聴覚に障害を有する本人から人工内耳の埋め込み手術を希望するケースなどについて、月に1回、東大耳鼻科の医師や言語聴覚士が集まってケースカンファレンスを行っている。このケースカンファレンスに本校乳幼のスタッフが参加している。本校乳幼に通ってきている子どもがケースとして挙げられることがある。その際には保護者のことや本校乳幼での子どもの様子、聴覚活用の状況などについて発言を求められることがある。一つ一つのケースについて医師や言語聴覚士が話し合う内容を聞くことで、本校乳幼のスタッフにとって大切な研修の場にもなっている。

##### (2) 保育園との連携

近年、母親が仕事に就いているため、保育園に通いながら本校乳幼で支援を受ける子どもの数が増えてきている。保育園としても、補聴器を装用している子どもを初めて受け入れるというところがほとんどである。保育園側から本校乳幼のスタッフから説

明を受けたいという希望が出ることがある。その場合、本校乳幼のスタッフが希望の出た保育園に行き、園長先生や担当保育士に子どもの聞こえにくさ、補聴器を装用した子どもへの関わり方、補聴器の具体的な扱い方などについて説明している。また本校乳幼の支援の内容や本校乳幼での子どもの様子について話をし、子どものことについて共通理解を図っている。

### (3) 発達センターとの連携

以前に比べて本校乳幼に通ってくる子どもたちが多様化してきている。聴覚障害のみではなく、ダウン症や肢体不自由などの障害を併せ有する子どもにも本校乳幼では支援を行っている。また気管切開をしていてカニューレを装着している子どもや経管栄養のチューブを装着している子どもにも支援を行っている。それらの子どもたちは地域の発達センターで指導を受けているケースが多い。

本校乳幼のスタッフは聴覚障害、コミュニケーションという視点からの支援は可能だが、併せ有する障害に対する支援については情報が不足していると言わざるを得ない。しかし、併せ有する障害に対する支援から、現在本校乳幼で行っている支援の参考になるものがあるのではないかと考えている。そのため、本校がある市川市の発達センターに行き、本校乳幼に通ってきている子どもたちについて話し合い、担当の言語聴覚士や作業療法士、理学療法士と情報交換を行っている。

### (4) 他校との連携

聴覚障害と肢体不自由などの障害を併せ有する幼児が本校乳幼で支援を受けている。この子どもたちに対して個別指導やグループ活動を行っているが、本校乳幼のスタッフの関わり方が子どもにとって不快であったり、子どものペースに合っていなかったりしているのではないかと気がかりなところがあった。そこで筑波大学附属桐が丘特別支援学校の支援部の教員に来校を要請し、聴覚障害と他に障害を併せ有する子どもと実際に関わってもらい、本校乳幼のスタッフからの質問に答えてもらう形でアドバイスしてもらった。

### (5) 難聴幼児早期教育公開研修会での連携

毎年2月に本校幼稚部を会場にして「難聴幼児早期教育公開研修会」を開いている。この研修会では千葉県内の保健師や保育士、耳鼻科医、言語聴覚士、教員などに参加を呼びかけている。本校乳幼と幼稚部の指導の参観、講演や情報交換などを行っている。この研修会を通して聴覚に障害を有する子どものことと、本校乳幼及び幼稚部の支援と教育について、聴覚に障害を有する子どもに関わる方々に理解を深めていただく機会になればと考えている。

## 3 成果と課題

本校の場合は学区がないため、医療機関から本校のことを紹介されないと保護者から初回相談の申込が来ないという現状がある。医療機関との連携をとっていくことによって、少しずつ信頼関係がつけられ、医師から積極的に子どもを紹介されることにつながっていくことを期待している。東京大学附属病院耳鼻咽喉科の人工内耳カンファレンスに参加することで、人工内耳に関する情報を得ることができ、その情報は人工内耳について質問してくる保護者への対応において大いに参考になっている。

難聴幼児早期教育公開研修会に参加した保健師より、数名であるが子どもを紹介していただいた。本校乳幼の支援について知る機会を外部に提供できたことが子どもの紹介につながったと思われる。

保育園や発達センターに出向き情報交換することで、お互いの場での子どもへの関わりや支援がより良いものになっていくことを期待しているが、継続して情報交換することができていないのが現状である。また筑波大学附属桐が丘特別支援学校の支援部の教員に来校してもらうことも、なかなか日程の調整ができず今年度はまだできていない。前回はお子さんの関わり方において、大いに参考になる話を聞くことができた。多様な子どもが通ってきているという現状において、本校乳幼のスタッフにとって、保育園での活動や他の障害に対する支援についての情報は必要であると考えます。